

## 各火山の 7 月の活動解説

### 【北海道地方】

#### めあかんだけ 雌阿寒岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

全磁力連続観測によると、96-1火口南側地下の温度の上昇した状態が継続している可能性がある。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### とからだけ 十勝岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

ここ数年、山体浅部の膨張や大正火口の噴煙量増加及び地震増加や発光現象などが観測されている。また、山麓の温泉成分にわずかな変化が認められている。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### たるまえさん 樽前山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、8日18時05分、白老町で震度5弱を観測する胆振地方中東部の地震があったが、この地震の発生前後で樽前山の火山活動に特段の変化は認められなかった。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ [噴火予報（平常）]

たいせつざん 大雪山 [噴火予報（平常）]

くつたら 倶多楽 [噴火予報（平常）]

うすざん 有珠山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ほっかいどうこまがたけ 北海道駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

えさん 恵山 [噴火予報（平常）]

### 【東北地方】

#### はっこうだきん 八甲田山 [噴火予報（平常）]

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」以降増加していた八甲田山周辺の地震は、2014年2月頃から減少し、今期間も少ない状況で経過した。2013年4月から7月にかけて増加した、大岳山頂直下の地震活動も少ない状況で経過し

た。

2013年2月頃から11月頃にかけてみられていた、小さな膨張性の地殻変動もみられなかった。

噴気活動や地殻変動の状況にも特段の変化は認められないが、大岳山頂直下の地震活動は継続していることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### いわてさん 岩手山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

6月には地震がやや多い状況となったが、7月は少ない状況で経過した。噴気などの表面現象や地殻変動の状況に変化はみられず、噴火の兆候は認められない。

#### あきたこまがたけ 秋田駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

めだけ 女岳では噴気や地熱域が引き続き確認されている。火山性地震は少ない状況で経過した。地殻変動にも変化はみられず、ただちに噴火する兆候は認められないが、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### さおうざん 蔵王山 [噴火予報（平常）]

火山性地震及び火山性微動は観測されなかった。地殻変動及び噴気活動にも特段の変化はみられず、ただちに噴火する兆候は認められないが、2013年1月以降、地震活動に高まりがみられるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### あづまやま 吾妻山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いているが、火山性地震は概ね少ない状況で経過した。

ただちに噴火する兆候は認められないが、火口内等では火山ガスの噴出が引き続きみられるため警戒が必要である。また、火口外でも風下側では火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきさん 岩木山 [噴火予報（平常）]

あきたやけやま 秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ちようかいさん 鳥海山 [噴火予報（平常）]

くりこまやま 栗駒山 [噴火予報（平常）]

あだたらやま 安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ぼんだいさん 磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

**【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】****草津白根山 [噴火警戒レベル 2、火口周辺規制]**

3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、その後、消長を繰り返しながら多い状態が継続している。火山性微動は観測されなかった。地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められている。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられている。また、全磁力観測による 5 月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は小規模なものであったとみられ、7 月以降は停滞している。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>2)</sup>に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

**浅間山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]**

火山活動に特段の変化はなく、山頂火口から 500m を超える範囲に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。ただし、山頂火口から 500m 以内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性があるため、火山灰の噴出や火山ガス等に警戒が必要である。

**弥陀ヶ原 [噴火予報（平常）]**

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

**富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]**

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

**伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]**

23 日から 29 日にかけて、島北部を震源とする火山性地震が増加した。この期間に震度 1 以上を観測する地震が 17 回発生し、このうち最大の地震は 28 日 17 時 05 分に発生したマグニチュード 3.7 の地震で、島内では伊豆大島元町で最

大震度 3 を観測した。低周波地震や火山性微動の発生はなく、その他の観測データに特段の変化はなかった。

GNSS<sup>1)</sup> による観測では、地下深部のマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が続いているが、2011 年頃から鈍化してきている。その他の観測では、活動状態の変化を示すデータはみられず、噴火の兆候は認められない。

**三宅島 [火口周辺警戒（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]**

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 2 月以降はやや少量となっている。三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は概ね少ない状態で経過した。火山性微動は観測されていない。

GNSS<sup>1)</sup> 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013 年頃から停滞している。島内の長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるためと予想される地域では火山ガスに警戒が必要である。

**西之島 [火口周辺警戒（入山危険）及び火山現象に関する海上警戒]**

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出により、新たに形成された陸地の拡大の継続が確認された。

23 日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、島の東岸に白色の噴煙を連続的に噴出する新たな火口が確認された。また、新たな陸地の大きさは、東西方向に約 1,150m、南北方向に約 1,050m、面積は約 1.08 km<sup>2</sup>（前回 5 月 21 日 : 0.86 km<sup>2</sup>）であった。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがあるので、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒が必要である。また、周辺海域では浮遊物に注意が必要である。

**硫黄島 [火口周辺警戒（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警戒]**

火山性地震は、3 月からやや多い状態で経過している。

GNSS<sup>1)</sup> 連続観測によると、地殻変動は 2014 年 1 月頃から停滞していたが、2014 年 2 月下旬

頃から隆起の傾向がみられる。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

### ふくとくおかのぼ**福徳岡ノ場** [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場では長期にわたりしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

- なすだけ 那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]
- にっこうしらねさん 日光白根山 [噴火予報（平常）]
- にいがたやけやま 新潟焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]
- やけだけ 焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]
- のりくらだけ 乗鞍岳 [噴火予報（平常）]
- おんたけさん 御嶽山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]
- はくさん 白山 [噴火予報（平常）]
- はこねやま 箱根山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]
- いずとうぶかさんぐん 伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]
- にいじま 新島 [噴火予報（平常）]
- こうづしま 神津島 [噴火予報（平常）]
- はちじょうしま 八丈島 [噴火予報（平常）]
- あおがしま 青ヶ島 [噴火予報（平常）]

### **九州地方及び南西諸島**

#### あそさん**阿蘇山** [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

火山性地震及び孤立型微動は多い状態で経過し、二酸化硫黄の放出量も1日あたり1,500～2,200トン（前回5月28日：1,400トン）と多い状態であった。

17日に実施した現地調査により、中岳第一火口の湯だまりが火口底から消失しているのを確

認した。湯だまりの消失を確認したのは1993年2月25日以来である。

中岳第一火口の火山活動は、わずかに高まった状態で経過していることから、今後の火山活動の推移には注意する必要があるが、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

火口内では土砂や火山灰の噴出する可能性がある。また、火口付近では火山ガスに注意が必要である。

### きりしまやま しんもえだけ**霧島山（新燃岳）** [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

GNSS<sup>1)</sup>連続観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられる。

新燃岳火口直下を震源とする地震は概ね少ない状態で経過したが、新燃岳に隣接する韓国岳周辺では、2014年2月頃から地震回数がわずかに増加している。今後の火山活動の推移に注意する必要がある。

新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>2)</sup>に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰だけではなく小さな噴石<sup>2)</sup>（火山れき<sup>3)</sup>）が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には、泥石流や土石流に注意が必要である。

### さくらじま**桜島** [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火<sup>4)</sup>が20回発生するなど、活発な噴火活動が継続した。噴煙の高さの最高は、5日21時15分に発生した噴火で、火口縁上2,600mに達した。4日06時46分の爆発的噴火では、ごく小規模な火砕流が発生し、昭和火口の東側へ約600m流下した。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>2)</sup>（火山れき<sup>3)</sup>）が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

### さつまいおうじま**薩摩硫黄島** [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過し

ており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では、火山ガスに注意が必要である。

くちのえらぶじま  
**口永良部島【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】**

火山性地震がやや多い状態で経過しており、新岳火口内では噴気活動が続いていることから、火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口付近では火山ガスに注意が必要である。

すわのせじま  
**諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】**

おたけ  
御岳火口では、17 日に小規模な噴火が発生した。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>2)</sup>に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>2)</sup>が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

つるみだけ がらんだけ  
鶴見岳・加藍岳【噴火予報（平常）】  
くじゅうざん  
九重山【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】  
うんぜんだけ  
雲仙岳【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】  
きりしまやま おほち  
霧島山（御鉢）【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

- 1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 2) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 3) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 4) 桜島、諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または気象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としている。